



地域別計画

①豊明中学校区 ②栄中学校区 ③沓掛中学校区



沓掛小学校 4年
鈴木 柊士さん

ナガバノイシモチソウが増えて、未来ではお花畑になっているように願いを込めました。

第4章 地域別計画

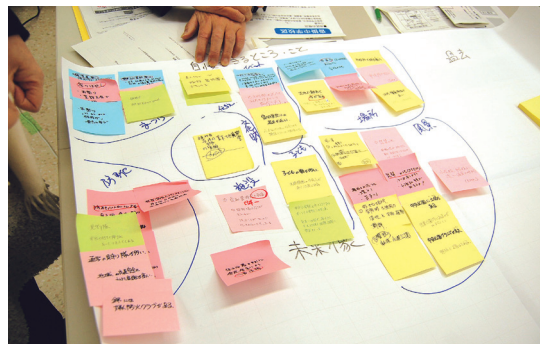
地域別計画の趣旨

地域コミュニティは、まちづくりの重要な主体者であり地域経営や個性ある地域づくりの中核を担っています。「地域でできることは地域で」という地域経営の第一歩として地域別計画を策定しました。地域別計画は、地域において住民が自ら地域の課題を把握し、いかに解決するのかを議論し、実践していくための手順を示したものです。

地域別計画策定の方法

コミュニティのまとまりをどの範囲にするかという点に関しては、さまざまな意見があります。今回は地域経営のモデル的な取り組みとして、概ね小学校区を大きく3つの中学校区^(※)に分け、各中学校区に居住する中学生から年長者まで三世代が、女性も男性も、自由闊達に意見交換し、策定しました。

※豊明小学校区は中学校区を跨ぎますが、今回は便宜的に栄中学校区としてワークショップを行いました。



<ワークショップの流れ>



1. 地域の自慢できること・好きなところについて話し合う



2. 地域の現在の状況について話し合う



3. 地域の過去の状況について話し合う



4. 地域の過去・現在の状況を踏まえて、それぞれが望む地域の未来像について話し合う



5. 地域の未来像を実現するために、自分たちができることのアイディアを出し合う



ページの見方

3つの中学校区で開催した「地域別計画ワークショップ」での意見をまとめたものです。ワークショップに参加した方のご意見をできるだけ多く掲載しましたが、掲載しきれなかったご意見や、参加した方とは別のアイデアなど、まだまだたくさんあると思います。この地域別計画を読んだ皆様も、同じようにお住まいの地域についてぜひ考えてみてください。



地域の自慢できること・好きなところ

それぞれの地域の自慢できることや好きなところについて、ワークショップで出し合った意見をまとめたものです。

地域の変化

地域の現在の状況、地域の過去の状況、めざす地域の未来像について、ワークショップで出し合った意見をまとめたものです。

③ 地域の変化

<めざす地域の未来像>

- 二世帯、三世帯同居の家庭が増えている
- 仕事がたくさんあり、生活が安定して、結婚する人が増えている
- 子どもを安心してたくさん産めるまちである
- 若い家族が好んで住めるまちである
- 地域活動が盛んで、住民が町内行事に積極的に参加している
- 高齢者が特技や技術を活かす機会があったり、外出できる場所がある
- 高齢者が互いに助け合えるまちである
- 現役世代と高齢者が話し合える雰囲気になっている
- コンビニで出せないものと考えて販売するなど、若者の起業が増えて、商店街が活性化している
- 生活に必要なものが町内で調達できて、車がなくても生活ができる
- 子どもが体を動かす遊び場や自然相手に遊ぶ場所がある
- 各家庭で防災対策ができています
- 防犯や災害に強く、みんなで協力できるまちになっている
- 花の街になっている

<現在>

- 空き家が増えてきた。
- アパートやマンションができ、住民のコミュニケーションが減少している。町内会離れがある。
- 共働き家庭が増え、近所づきあいが減った。
- 商店街の店が減り、コンビニやスーパーが増えた。
- 遊技場が減った。
- 子どもの遊び場が少なく、ゲームをしている子どもが増えた。暑いので子どもが遊んでいる様子を見なくなった。
- 少子化で小学校のクラスが1クラスしかない。逆に、高齢者が増えた。また外国人が増えた。
- 通り抜けの車が多く、危険が増えた。
- 電車やバスが便利になった。

<過去>

- ベビーブームで住宅不足だった。空き家はなかった。
- 家族ぐるみの付き合いがあり、互いに助け合って生活していた。しょうゆを借りに行ける関係だった。
- 引越しの手伝いや保育園の送り迎えなど協力して行っていた。
- 商店がたくさんあり、商店街があった。雑貨店があった。
- 子どもが多く、にぎやかだった。近所の子どもがグループで遊んでいた。塾はなかった。
- 高齢者が活動できる場所があった。
- 自主防災組織がなかった。
- クワガタや魚などがいて、捕まえていた。

④ 未来を実現するために地域ができること

<花の街になっている>

- 花を大切にする
(踏んだりしない、モラルを向上させる)
- 花を好きになる
- 花のきれいな場所を伝える
- 家庭で花を植える
- 近所の人に花の種などをあげる
- 事業所やお店で花を植えて、きれいさを競い合う
- 公共施設に花を植える
- 学校の緑化委員会の活動を活性化させる
- 夏まつりや秋まつり、農協まつりなどで花を売る
- 三崎水辺公園、豊明中学校、間米の葉の花畑など花のきれいなところを伝える

<若い家族が好んで住めるまちである>

- 子育て中の人が、休日にのんびりできる場所をつくる
- 子育て中の人が住めるように空き家を活用する
- 子育て中の人が働きやすい事業所や商店を増やす
- 子育て中の人がランチを楽しめる(キッズメニュー等)お店を増やす
- 以上のような場所で、たくさんの地域の人が活躍できる機会や場をつくる

<地域活動が盛んで、住民が町内行事に積極的に参加している>

- すでにある組織に住民が積極的に参加する
- そのために各組織が連携・協力して、イベントを盛り上げる
- 高齢者の経験や知識と、若い人のアイデアと行動力を活かして地域活動を行う

未来を実現するために地域ができること

めざす地域の未来像を実現するために地域ができることについて、ワークショップで出しあったアイデアを例示したものです。

(1) 豊明中学校区

① 豊明中学校区の概要

<位置>

- 豊明中学校区は、豊明市の北中部に位置し、双峰、大宮、唐竹、三崎小学校区で構成されています。
- 緑地とため池が点在しつつ、良好な住宅街が形成されています。

<人口・世帯・人口密度>

- 人口は、22,750人で市全体(68,448人)の33.2%を占めています。
- 世帯数は、9,756世帯で市全体(28,174世帯)の34.6%を占めています。
- 人口密度は、44.4人/ha(市全体29.5人/ha)となっています。

※平成26年4月1日現在の住民基本台帳より

<土地利用状況>

- 土地利用は、住宅用地が多く29.7%を占めています。
- 中京競馬場が立地しており、公共空地が比較的多く、また公的・公益施設用地も多くなっており、全体として都市的な土地利用となっています。その中でも一部、農地や山林などが残されています。



② 自慢できること・好きなところ

<歴史・文化・芸術>

- ① 間米八幡社は歴史が古く、地域で実施する盆踊り、秋祭り、餅つき会などを行う活動の広場であり、昔からの憩いの鎮守の森です。また、② 高鴨八幡宮は緑が豊かで、木漏れ日や小鳥のさえずりが好きです。秋祭りでは餅投げが行われます。
- ③ 二村山には胴体が斜めに切られた形で、上半身と下半身が別々になっている「切られ地蔵」があります。
- ④ 文化会館の豊明夏まつりがすごく楽しいです。花火大会は間近で見られるのでとても迫力があります。





③ 切られ地蔵



⑦ 二村山展望台からの大パノラマ

<自然・立地>

- ◎ 高台地区で水害が少なく、地盤も強く、自然災害に強い地域です。
- ⑤ 三崎水辺公園は、散歩が楽しめ、春には桜がきれい、お花見ができます。
- ⑥ 荒巻水辺公園は、春には桜、秋には紅葉し、上池とマッチして一層美しくなります。
- ⑦ 二村山展望台からの360度の大パノラマが素晴らしいです。

<インフラ・産業>

- ◎ 電車やバスにあまり待たずに乗れて、名古屋へも1時間以内で行けるなど、公共交通の便がよいです。
- ⑧ 市立図書館があり、たくさんの本やCDを身近に借りられます。
- ⑨ 豊明中学校は、テニスコートが6面、屋内プールがあり、施設が充実しています。また⑩ 双峰小学校内には地域のコミュニティセンターや放課後子ども教室などがあり、地域の拠点になっています。
- ⑪ 唐竹公園はグラウンドが広く、芝生や遊具も整っています。
- ⑫ 藤田医科大学病院があり、大病や急病の時にも安心です。
- ⑬ 二村台にぶどう園があり、とてもおいしいです。
- ⑭ 中京競馬場があり、G1レースの際には有名人が来ます。



⑤ 三崎水辺公園

③ 地 域 の 変 化

<めざす地域の未来像>

- 二世帯、三世帯同居の家庭が増えている。
- 仕事がたくさんあり、生活が安定して、結婚する人が増えている。
- 子どもを安心してたくさん産めるまちである。
- 若い家族が好んで住めるまちである。
- 地域活動が盛んで、住民が町内行事に積極的に参加している。
- 高齢者が特技や技術を活かす機会があったり、外出できる場所がある。
- 高齢者が互いに助け合えるまちである。
- 現役世代と高齢者が話し合える雰囲気になっている。
- コンビニで出せないものと考えて商売をするなど、若者の起業が増えて、商店街が活性化している。
- 生活に必要なものが町内で調達できて、車がなくても生活ができる。
- 子どもが体を動かす遊び場や自然相手に遊ぶ場所がある。
- 各家庭で防災対策ができています。
- 防犯や災害に強く、みんなで協力できるまちになっている。
- 花の街になっている。

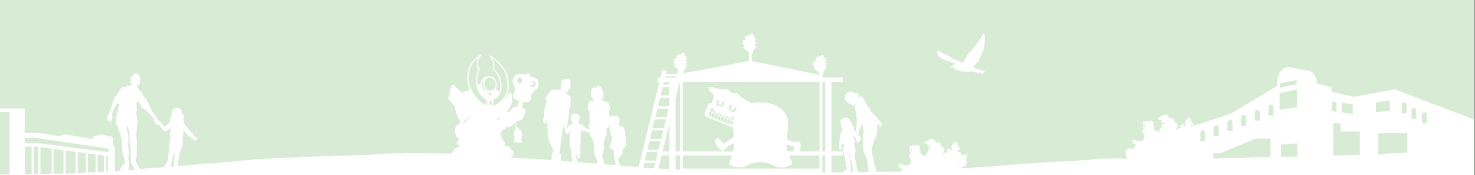


< 現 在 >

- 空き家が増えてきた。
- アパートやマンションができ、住民のコミュニケーションが減少している。町内会離れがある。
- 共稼ぎの家庭が増え、近所づきあいが減った。
- 商店街の店が減り、コンビニやスーパーが増えた。
- 遊技場が減った。
- 子どもの遊び場が少なく、ゲームをしている子が増えた。塾通いで子どもが遊んでいる様子を見なくなった。
- 少子化で小学校のクラスが1クラスしかない。逆に、高齢者が増えた。また外国人が増えた。
- 通り抜けの車が多く、危険が増えた。
- 電車やバスが便利になった。

< 過 去 >

- ベビーブームで住宅不足だった。空き家はなかった。
- 家族ぐるみの付き合いがあり、互いに助け合って生活をしていた。
- 引越しの手伝いや保育園の送り迎えなど協力して行っていた。しょうゆを借りに行ける関係だった。
- 商店がたくさんあり、商店街があった。雑貨店があった。
- 子どもが多く、にぎやかだった。近所の子どもがグループで遊んでいた。塾はなかった。
- 高齢者が活動できる場所があった。
- 自主防災組織がなかった。
- クワガタや魚などがいて、捕まえていた。



④未来を実現するために地域ができること

<花の街になっている>

- 花を大切にする。
(踏んだりしない、モラルを向上させる)
- 花を好きになる。
- 花のきれいな場所を伝える。
- 家庭で花を植える。
- 近所の人に花の種などをあげる。
- 事業所やお店で花を植えて、きれいさを競い合う。
- 公共施設に花を植える。
- 学校の緑化委員会の活動を活性化する。
- 夏まつりや秋まつり、農協まつりなどで花を売る。
- 三崎水辺公園、豊明中学校、間米の菜の花畑など花のきれいなところを伝え合う。
- 子どもの頃から花を育てる機会を増やし、若い世代に知識を持ってもらう。



<若い家族が好んで住めるまちである>

- 子育て世代が、休日にのんびりできる場所をつくる。
- 子育て世代が住めるように空き家を活用する。
- 子育て世代が働きやすい事業所や商店を増やす。
- 子育て世代がランチを楽しめる(キッズメニュー等)お店を増やす。
- 子どもが遊べる、子育て世代が集える魅力的な場所をつくる。
- 以上のような場所で、たくさんの地域の人活躍できる機会や場をつくる。

<地域活動が盛んで、住民が町内行事に積極的に参加している>

- すでにある組織に住民が積極的に参加する。
- そのために各組織が連携・協力して、イベントを盛り上げる。
- 高齢者の経験や知識と、若い人のアイデアと行動力を活かして地域活動を行う。
- 地域行事に参加しやすい情報発信を行う。



(2) 栄中学校区



① 栄中学校区の概要

< 位置 >

- 栄中学校区は、豊明市の南西部に位置し、概ね豊明、栄、館の3小学校区で構成されています。
- 北西部は名古屋市緑区、西部は大府市、南東部は刈谷市と接しています。

< 人口・世帯・人口密度 >

- 人口は、23,850人で市全体(68,448人)の34.8%を占めています。
- 世帯数は、9,918世帯で市全体(28,174 世帯)の35.2%を占めています。
- 人口密度は、40.5人/ha(市全体29.5人/ha)となっています。 ※平成26年4月1日現在の住民基本台帳より

< 土地利用状況 >

- 土地利用は、住宅地が27.5%、農地が19.2%を占め、北部は住宅用地として、南部は住宅用地と農地が共存する農村集落的な土地利用になっています。
- 伊勢湾岸自動車道、国道1号、国道23号、主要地方道瀬戸大府東海線、名鉄名古屋本線など、交通の要所が集まっています。
- その他、桶狭間古戦場、旧東海道(阿野一里塚)など、歴史資産も残っています。

② 自慢できること・好きなところ

<歴史・文化>

- ◎地域の各団体が協力して夏祭りを開催しています。
- 15 大脇の梯子獅子の演技はもちろんのこと、子ども会と一緒にやる秋祭りは最高です。地域が一体となります。伝統が引き継がれています。
- 16 桶狭間古戦場伝説地があり、桶狭間古戦場まつりで行われる各種イベントと武者行列の優美華麗さが好きです。歴史を身近に感じることができます。
- 17 旧東海道の街並みや豊明小学校の桜が好きです。
- 18 市内最古の木造建築物である曹源寺の山門があります。そのたたずまいに思わずカメラのシャッターを切りたくなります。九の市も開かれます。
- 19 阿野一里塚は、めずらしく両塚が残っていて東海道の中でも貴重な存在です。

<自然>

- 20 大脇は田園が広がっており、国道23号の南、栄交差点南側にはたくさんの野鳥が飛来し、多くのカメラマンが訪れます。
- 21 大蔵池公園や 22 大原公園などを散歩すると季節がよくわかって気持ちがいいです。

<インフラ・産業>

- ◎伊勢湾岸自動車道、国道1号、23号、名鉄名古屋本線などがあり、交通の利便性が高いです。
- 23 冷蔵庫・製氷機などを製造するホシザキ電機があります。



③ 地 域 の 変 化

<めざす地域の未来像>

- 子どもの頃から人のつながりを大切にし、地域のイベントに主体的に参加している。
- 近所同士のふれあいがあり、互いに助け合っている。
- 子どもが伸び伸びと遊んでいる。
- 地域の親、祖父母がいて、子どもが大人になる育ちを支援している。
- 多世代が集まれる店がある。おせっかいな店がある。
- 交通の利便性が高まり、互いに譲り合い、心にゆとりがある。
- 自然に親しむことができる場所がある。
- まちがきれいである。
- 観光のアピールができています。



< 現 在 >

- 核家族になり、高齢者世帯が多い。空き家が増えた。
- 世話焼きおばさんがいなくなった。住民同士の結びつきが少なくなり、近所の人の顔が見えなくなった。
- 共働きなどの影響で子どもの様子が気が付かない。子どもに何でも買い与えるようになった。挨拶ができない子が増えている。
- 子どもたちが遊べる広場が少なく、子どもたちの遊ぶ様子がほとんど見られない。公園は規制がある。塾通いの子どもが多い。
- 駄菓子屋さんなどは減ったが、コンビニは増えている。
- 車の交通量が増え、安心して通学ができない。
- 河川が汚れている。

< 過 去 >

- 家族が一緒に暮らしていた。若者がたくさんいた。
- 縁側でお茶を飲んで、みんなでふれあっていた。
- 家庭や地域でしつけをしていた。
- 広場が多く、どこでも遊べた。池での釣りや山でのキャンプなどをした。
- 駄菓子屋さんなど小さな店がたくさんあった。
- 車の台数が少なく、まちがのんびりしていた。安心して通学することができた。
- 河川がきれいで、ホテルがいた。



④未来を実現するために地域ができること

<子どもの頃から人のつながりを大切にし、地域のイベントに主体的に参加している>

- 家族で地域のイベントに積極的に参加する。
- イベントの情報を友だちなどに伝える。学級文庫に広報を置く。
- 昼や夜にイベントをして、参加しやすくする。
- 公園に積極的に遊びに行く。近所の人に声をかける。
- 公園などで年の違う子ども同士で遊ぶ。
- 高齢者が困っていたら手伝う（「荷物を持ち隊」など）。
- 児童館を中学生でも行きやすい場所にする。
- 部活や塾で忙しいので「地域の日」をつくる。



<近所同士のふれあいがあり、互いに助け合っている>

- みんなが毎日挨拶をして、挨拶を返している（家庭の中で普段から挨拶をする。挨拶隊をつくる）。
- 日常的に声かけをする（回覧板を回す時、留守にする時など）。
- 互いの状況を知る（どのような人が住んでいるのか、どんな団体、イベントがあるかなど）。
- 共助の活動をする（庭木の剪定、ごみ出し、買い物など、困っていることを手伝う。見守り隊を結成する）。
- 共同作業をする（防犯パトロール、清掃活動など、地域の活動に子どものうちから参加してもらう）。
- 地域で楽しみを共有する（餅つき大会、花壇、趣味など）。
- 地域の行事や活動に気軽に参加できるような雰囲気をつくる。

<地域の親、祖父母がいて、子どもが大人になる育ちを支援している>

- 大人同士が横のつながりをもつ（ごみ出し、通学時の見守り、イベント）。
- 子どもと一緒にいる機会と時間を増やす（ラジオ体操、イベント、遊びの伝承など）。
- 子どもが大人に教える。大人が子どもに教える。
- 敬老会だけの活動ではなく、子どもを巻き込む（その逆もある）。
- 地域の行事で、世代で偏りがないようにする。
- 空き家などを活用して、大人と子どもと一緒に遊べる場所にする。
- 農家や地元産業と協力して、親子の体験の機会をつくる。



(3) 沓掛中学校区

① 沓掛中学校区の概要

<位置>

- 沓掛中学校区は、豊明市の北東部に位置し、中央、沓掛小学校区で構成されています。
- 市域の52.5%を占め、北は名古屋市、東郷町、東は刈谷市と接しています。

<人口・世帯・人口密度>

- 人口は、21,848人で市全体(68,448人)の31.9%を占めています。
- 世帯数は、8,500世帯で市全体(28,174世帯)の30.2%を占めています。
- 人口密度は、17.9人/ha(市全体29.5人/ha)となっています。 ※平成26年4月1日現在の住民基本台帳より

<土地利用状況>

- 土地利用は、農地が37.2%を占めています。また、住宅用地は14.7%で農村集落の土地利用となっています。
- 特に北部は、農地や山林、ため池等の残る緑豊かな田園地域となっています。
- また、南部地域は豊明駅から市役所周辺まで住宅地が広がっており、人口の集中しているエリアも併せ持っています。



34 沓掛城址公園



37 愛知豊明花き地方卸売市場



32 ナガバノイシモチソウ



豊明中学校区



36 中央公園の土俵



② 自慢できること・好きなところ

<歴史・文化>

- ②④ 上高根の警固まつりなど、まつりを通じて歴史を感じることができます。
- ②⑤ 大久伝神社、大久伝区の小学生による神楽舞、囃子太鼓などが自慢です。
- ②⑥ 吉池八剣社では、2と7の付く日に朝市が開催されます。
- ②⑦ 旧鎌倉街道沿に大きな楠木があり、根元には青木地蔵があります。

<自然>

- ③① 田畑が多く、四季を感じることができます。
- ③② 勅使水辺公園があり、散歩をしたり、ジョギングしたりすることができます。
- ③③ 若王子池は、鳥などが飛来し、とても景観のよい場所です。
- ③④ 琵琶ヶ池は桜の花がきれいで、よく魚釣りをしている人がいます。
- ③⑤ 魚が泳ぐ境川があります。
- ③⑥ ナガバノイシモチソウや③⑦ 大狭間湿地の植物群が自慢です。
- ③⑧ 沓掛城址公園は、桜の名所でとてもきれいです。

<インフラ・産業>

- ④⑤ 勅使グラウンドにはテニスコート、ターゲットバードゴルフ場や弓道場もあり、色々なスポーツに親しむことができます。
- ④⑥ 中央公園には、めずらしく土俵があります。
- ④⑦ 鉢物の取引が日本一の花き市場があります。
- ④⑧ 寿がきや食品の本社があります。



③ 地 域 の 変 化

<めざす地域の未来像>

- 子どもが広い場所で思いっきり体を動かして遊ぶことができる。
- 向こう三軒両隣の付き合いがあり、思いやりがある。
- 地域の人々のコミュニケーションが活発で、連携した活動ができる。
- 500mおきに誰でも立ち寄れる場所がある。
- 移動や買い物などで、暮らしやすい環境になっている。



< 現 在 >

- 小さな公園が増えたが、大きな声を出してはいけない、ボール遊びが禁止など、子どもが自由に遊べなくなった。子どもは家の中でゲームで遊ぶことが多くなった。また、塾へ行くようになった。
- 高齢になっても働く人が多い。
- 一人暮らしの高齢者が増えた。
- 近所づきあいが少なくなった。
- 子ども会や老人クラブ、婦人会に参加する人が減っている。
- 商店街がなくなり、コンビニが増えた。買い物は遠くまで行かなければならなくなった。

< 過 去 >

- 外で遊ぶ子どもが多かった。子どもの遊ぶ場所に制限がなかった。
- 二世帯、三世帯の家庭が多く、家族の団らんがあった。
- 高齢者は仕事をリタイアしたあとは家族との時間をもったり、地域の活動などに関わっていた。
- 近くによろず屋さん、駄菓子屋さんがあった。
- 地域のつながりがあった。

④未来を実現するために地域ができること

<子どもが広い場所で思いっきり体を動かして遊ぶことができる>

- 小さい子どもと遊んだり走ったりする。
- 自分の好きな遊びを見つける。
- 自分の好きなスポーツを教えたり、教えてもらったりする。
- 学校を使いやすくする。
- 川をきれいにする。
- 神社、河川敷などに遊べる場所をつくる。
- サッカーや野球ができる広い場所をつくる。
- グラウンドは無料で遊べるようにする。
- 子どもが安全に遊べる場所、親が安心して遊ばせることができる場所をつくる。



<向こう三軒両隣の付き合いがあり、思いやりがある>

- 会った人とあいさつをする。
- 人々の交流の機会をつくる(世代を超えて、一緒に体を動かす、楽しむ)。
- 高齢者の日常を知り、互いに助け合う。
- 小さなことから助け合いの活動を始める。
- 空き家などを活用し、いつでも気軽に集まれるサロンのような場をつくる。
- 班単位で活動ができるようにする。

<移動や買い物などで、暮らしやすい環境になっている>

- 地域の事情に合った移動手段に変えていく(乗り合いスタイル。規制については行政と検討)。
- 店と検討し、移動販売ができるようにする。
- 地元の人が地元で消費するように工夫する(地元で買い物をすることで得するような仕掛けなど)。
- 困り事を地域で解決できるような助け合いを行う(ワンコイン制など)。

